

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、さらには、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校。地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

- それぞれの学力向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）
- コミュニケーション能力の向上（ピア・プレゼンテーションの取組など）
- 地域連携の推進

2 中期的目標

- 学力の向上（学ぼうとする力の育成）
 - 本校生徒にとって『授業のユニバーサルデザイン化（以下UD授業）』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。
 - 本校勤務年数が少ない教員への日常業務を通じた指導法の継承(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。
 - 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。
 - ICTを活用し、授業改善と業務軽減を行う。すべての教員がプロジェクターを活用できるようにする。
 ※ ユニット研修において年間5回以上の研究授業を行い、外部からの指導助言を受け研究協議する。
 ※ 生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合（強く思う、ややそう思う）を80%以上。(H29年度71%)
 ※ 授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」の項目で3.5ポイントに向上させる。(H29 :3.29)
 - 生徒の学習習慣を確立させることを通して、学習意欲を向上させる。
 - 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。
 - 日々の放課後に自習室・図書館を利用して学習する生徒がいる状態にする。
 - 生徒の読書習慣を確立する。
 - 生徒の遅刻を減らす。
 - ICTを活用し年度末の成績不振（欠席30日以下の生徒）による留年者を減少させる。(H29 :1年7名、2年4名、3年0名)
 - 生徒一人ひとりの進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。
 - 義務教育段階の学力修得を目的とした茨田検定（振返り学習）・「基礎教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。
 - 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、授業以外の講習などを積極的に実施する。
 - キャリア教育の実践として生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現させる。
 - 国際問題を絡めた英語教育
 ※ 生徒の基礎学力を向上させることで、1年生・2年生の進級率を上げ、平成31年度には1年生85%2年生95%にする。(H29年度1年68.8%・2年86.4%)
 ※ 進路決定未定者の割合を平成2019年度には10%以下にする。(H29年度6%)
 ※ UD教材の研究。プロジェクターを活用した茨田検定解説教材の作成。
- より良い人間関係づくりができる学校文化の創出
 - 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。
 - 教員のコミュニケーション指導力を充実する。
 - 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。
 - 教職員ピア・プレゼンテーション（以下「PM」）研修を実施し、PMの理解促進及び普及を図る。
 - 『コミュニケーション』の学校設定科目「コミュニケーション総合」の内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。
 - 英語によるコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図る。(International Day ,プレゼンテーションを意識した英語授業)
 - 面接指導等の進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。
 - 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。
 - 障がい者に対する理解があり、思いやりがある人を育てる。
 ※ 作成した「PM」のテキストを、校内で活用するとともに、その手法を他校にも普及させる。
 ※ 志学や道徳教育との関連性を重視した独自のコミュニケーション教育を構築する。
 ※ 学校教育自己診断にコミュニケーション能力に関する項目を入れ、80%以上の生徒がコミュニケーション能力の向上を実感できる学校にする。(H29:68%)
- 地域連携の推進（地域の人と楽しむ学校）
 - 地域連携を通じた生徒の成長
 - 地域の活動に参加する。
 - ※ 地域の活動への参加回数を維持する。(H29年度9回)
 - 地域の人々を学校に招聘する。
 - ※ 体育祭や文化祭、茨田高校フェスティバル（地域交流イベント）を活用して地域の人々を学校やイベント会場に招き、交流を持つ。
 - ※ 中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H29年度3回)
 - 広報活動の充実
 - HPの充実
 - ※HPを1週間に1回の頻度で更新する。
 - 学校説明会の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成31年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 「授業のユニバーサルデザイン化」「楽しい授業」「規律ある授業」を行うことにより学力の向上に取り組んだが、教員向けの「指導方法や内容に工夫をしている」が肯定率92%に対し、生徒向けの「授業はわかりやすく楽しい」が65%となっている。一方、授業アンケートでは授業への満足度は85%と高く、自己診断ではまじめに授業への取り組んでいる様子がうかがえる。学習指導面で肯定率が低下している原因として、学力に課題のある生徒に対応しきれていない点などが考えられるが、一層の授業のユニバーサルデザイン化やICTを活用した授業等で授業改善に取り組んでいく。</p> <p>【生徒指導等】 保護者向けでは「学校の生徒指導の方針に共感している」が80%、教員向けでは「生徒指導において家庭との連携」や「生徒指導の体制」で90%以上となっており高い肯定率を示しているのに対し、生徒向けでは「先生の指導は納得できる」が61%となっており、昨年より7%減少した。原因としては、ここ数年、生徒指導に力を入れてきたが、SNS等で周囲の学校の情報がより多く入ってくることで他校との比較をし、本校の指導が厳しいと感じている生徒が増加していることがあげられる。今後、研修等で生徒との接し方・生徒へのアプローチなどの、教員としてのスタンスを確立し、生徒が納得するような対応を心がけていく。</p>	<p>【第1回】平成30年6月14日（木） 学校経営計画の説明について述べた後、本校の取り組みについて説明。 ○H30年度学校経営計画について ・わかりやすい授業の取り組みについて、生徒の状況に対して授業や学習評価をどのようなものに設定しているか。わかりやすさや学習のレベルなど生徒の状況に合わせたものであってほしい。 ・生徒が納得できる生徒指導について昨年度と比べ学校教育自己診断の肯定率が低下しているが具体的な理由や内容は分析されているか。生徒が指導に納得していないと感じたときの対応など「聞くことに主体をおいた指導」をお願いしたい。 ○本校教育の全般について ・昔（10年ほど前）の茨田高校と比べて年々改善してきたおかげで、今は茨田高校に対して信頼感をもっている。先生方の努力に非常に感謝している。 ・地域交流の機会に対しては、さまざまな面でどんどんバックアップしていきたい。 ・クラブ指導と働き方改革のジレンマがある。教員の負担だけに頼り過ぎているところがある。地域の方と協力してクラブ指導ができる体制を作ること検討できないか。</p> <p>【第2回】平成30年11月8日（木） 本校の現状報告について説明した後、授業アンケート結果と経年変化の分析について、いじめに関するアンケートの結果、進路の決定状況を説明。 ○授業アンケートについて ・数年前から見て数値が上昇しているが、そろそろ数値が上がりきった印象がある。</p>

<p>【学校運営等】</p> <p>・「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」との回答をした教職員が 56%と昨年の 76%から減少した。このことを受けて研修の報告体制を整え、研修の成果を発表、情報共有する場を設定していく。</p>	<p>教員の努力で良くなっている部分があるのに、それがみえにくくなってきているので質問項目の検討が必要ではないか。</p> <p>○次年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値が全てではないが、数値目標を示すことが大事である。 ・教員の資質向上と授業力向上に対する取り組みも盛り込んでもらいたい。 <p>○いじめに関するアンケートの結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートを入り口にして、生徒の立場に立って対応できる教員の能力が問われる。生徒の意識によって数値の表れ方が変わるため、数字にとらわれないようにして欲しい ・インターネット上の誹謗中傷などに対しては、学校の対応には限界がありスクールロイヤーの活用も必要である。 ・家族を含めた周りによる、被害生徒に対するケアを十分にすることが重要である。 ・学校は未然防止を十分に取組んで欲しい。 ・被害生徒がいる場合、相談窓口はわかりやすく示されているか。また SC との連携にしっかりと努めてほしい。 <p>【第3回】平成31年2月21日(木)</p> <p>本年度の取り組み、平成30年度学校教育自己診断の結果、第2回授業アンケートの結果次年度学校経営計画について説明。</p> <p>○学校教育自己診断、授業アンケートの結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入学してよかった」生徒(70%)保護者(81%)となっているが、子どもが茨田高校に入学して良かったと感じている。先生方に非常に感謝している。 ・「先生の指導に納得できる」生徒(61%)について、子どもが「納得できない」と感じる指導がすべて良くないわけではない。必要な指導はやっていくべきである。実際、茨田高校はこの数年でとてもよくなった。先生方の指導の賜物ではないかと考えている。 ・学習支援機能に関しては、現在取り組んでいる補習や自習室の取り組みをもっと外部にアピールする工夫が必要ではないか。 ・遅刻対策に関しては、十分な成果をあげていることをわかりやすく外部に示す方法を工夫していく必要がある。 ・部活動は、授業以外の生徒が学校生活の充実を感じるものにつながるはずである。部活動の活性化を図っていけないか。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学 力 の 向 上	<p>(1)『UD授業・楽しい・規律ある授業』を実現するための教員の授業力向上</p> <p>ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施</p> <p>イ ユニット研修や研究授業の充実</p> <p>ウ ICTを活用した授業改善と業務軽減とプロジェクターの積極的活用</p> <p>(2) 生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上</p> <p>ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場(自習室・図書室)を整備したうえで、教員が生徒</p>	<p>(1)</p> <p>ア・担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となって、若手育成に当たっている研修組織(青葉会)の内容の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導する。 ・年度当初に、エバーサルデザイン視点に即した教室整備を行う。 ・生徒の家庭環境を知り、それに合わせた指導を行えるようにする。 ・生徒が納得感を持つ生徒指導を行うため、毎週の学年会、生指部会で指導状況の確認、点検を行う。 <p>イ・教員全員を、グループ(ユニット)に分け、各ユニットで初任者研究授業や授業力向上に関連する研修、公開授業、研究協議を企画実施し、その成果を校内で共有(授業力向上研修)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UD授業の取組みを実施することで、本校生徒の理解がより深まる授業を行う。 <p>ウ・校内の視聴覚機器、大型プリンター等を活用して、UD授業の視点に立った教材作成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立する。 ・ICTを活用し教材の共有をはかり、長時間勤務解消につなげる。 <p>(2)</p> <p>ア・放課後の自習室と図書室への教員常駐。生徒に対する個別学習指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、特定の時期に応じた生徒の個別学習を充実させるように、各教科が教材準備や指 	<p>(1) 授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」の項目が3.5ポイント以上。H29 : 3.29</p> <p>ア・青葉会の研修を年間で12回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の授業見学において、次の2点を重点的に指導する。 《授業規律》 生徒の机上の整理整頓 《エバーサルデザイン化》 教室掲示物・板書状況 ・毎週学年会を開催し点検事項の確認を行う。 ・青葉会と週一回の学年会開催で情報共有 ・「学校生活において先生の指導は納得ができる」80%をめざす。(H29 : 68%) <p>イ・初任者研究授業・公開授業の実施とその後の研究協議を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に各ユニットの研修成果を発表する授業力向上研修を実施し校内での共有化を図る。 <p>ウ・生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を80%以上にする。H29 (71%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・自習室を授業日には毎日開室。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「日 	<p>(1) 授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」の項目ポイント(3.35)(△)</p> <p>3.5には達しないが84%の生徒が授業内容に興味関心を持った(○)</p> <p>ア・12回実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始後5分の規律指導を行う(○) 非常勤講師への周知が課題 ・各教室掲示物が見やすく整っている(○) ・UD授業チェック表を配布(○) ・全学年学年会を毎週月曜日に開催。(○) ・「学校生活において先生の指導は納得ができる」80%をめざす。(61.4%)(△) <p>イ初任者(2名)研究授業をユニット研修として実施。観察する観点を明確にするなど質が向上した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上研修において新学習指導要領を踏まえた「茨田授業スタンダード」を提示(○) <p>ウ・「授業がわかりやすい」という項目に対する肯定的な割合は65%。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月80時間以上の超過勤務者が延べ人数H29年度31名から16名に減少。(○) <p>(2)</p> <p>ア自習室は授業日に毎日の開室(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室の開館日は昨年と変わらず。考査前の教員付添、テスト対策プリントが充実。(○)

<p>を個別指導できる体制をつくる。</p> <p>イ 生徒の読書習慣を確立する。</p> <p>ウ 生徒の遅刻を減らす。</p> <p>エ ICTを活用し成績不振による留年を防ぐ</p> <p>(3) 生徒個々の進路目標に合った学力を育成する。</p> <p>ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振り返り学習)」「一般教養講座」、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。</p> <p>イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習を積極的に実施する。</p> <p>ウ 生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現する。</p> <p>エ 国際問題を絡めた英語教育</p>	<p>導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業開始後に「振り返り」「漢字」「計算」などの10分間の小テストを実施。全教科開始後5分の規律指導を実施。 <p>イ 毎日の終礼、総合的な学習の時間、LHR、基礎教養などの時間を利用して、年間を通した「10分間読書」活動を企画実施する</p> <p>ウ 遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行う。 <p>エ プロジェクターを活用した授業の実施と年度末成績不振(欠席30日以下の生徒)による留年を0にする。</p> <p>(3)</p> <p>ア 「茨田検定」のICT化。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績不振者への指名補習、個別指導を充実させる。 <p>イ 2・3年生で学業成績に基づくクラス編成を実施し、成績の推移を分析しながら、各授業で生徒の学力向上をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部機関の資格試験(漢検・英検・P検(パソコン検定・数検)等)を活用して、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。 発展・応用的学力の習得をめざす講習を、1年生から実施する。 <p>ウ 進学希望者に対して、進路希望に応じた多様な講習を1年生から実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者に対して、インターンシップや試験対策講座を2年生から実施する。 進路ガイダンスの充実 <ul style="list-style-type: none"> 急な進路変更に対する対応 卒業後の離職、退学者の防ぐ <p>エ 実用英会話の授業において諸外国調べ、プレゼンテーションの実施。</p>	<p>常に放課後学校で学習したり、家庭で学習している」の項目に肯定的な答えを出す生徒の割合を60%にする。</p> <p>H29(51%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テストは英数国で実施。 <p>イ 「10分間読書」を年間で10日実施する。</p> <p>H29:10日</p> <p>ウ 年間遅刻総数を10000人以下に減少させる。</p> <p>H29(8877人)</p> <p>エ 全教員がプロジェクターを使用した授業ができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績不振留年(H29) 1年7、2年4、3年0名(3) <p>ア 茨田検定で解説・解答にプロジェクターを活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 各中間考査後と夏季・冬季休業期間中に、座学教科で成績不振者への指名補習を実施する。 1年生85%、2年生95%の進級率をめざす。 <p>(H29:1年68.8% 2年86.4%)</p> <p>イ 1年生全員が英語検定を受験するよう指導する。H29全員受検</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種外部機関の資格試験合格者を増加させる。(H29年度の総合格者224名) <p>ウ 進学、就職希望者対象の各種講習について、開講講座数確保と講習への総参加者を、今年度より増加させる。</p> <p>(H29:開講講座数14、総参加者122人)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路決定未定者の割合を10%以下にする。(H29年度10名6%) 進路HRを1年7回、2年5回、3年5回+基礎教養(毎週)を実施 <p>エ 公開授業の実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的な回答42.4%(H29:51%) (△) 授業導入として英数国では小テストを実施(○) <p>イ 5、11月実施。合計10日(○)。広報・本の選定など図書委員が積極的に読書週間に関わった(○)</p> <p>ウ H30年度は5664人。遅刻総数は年々減少している。(○)</p> <p>エ プロジェクター活用が授業以外のHRにも広がっており、全教員が使用できる。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績不振留年(H30) 1年9、2年2、3年0名(△) <p>(3)</p> <p>ア プロジェクターを活用して茨田検定実施できるよう各クラスUSBに模範解答を入れ配布。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績不振者補習は充実。制度として定着した。 進級率 1年:70.5% 2年:92.6%(△) <p>イ 本年度より2年生も全員英語検定を受検</p> <ul style="list-style-type: none"> 国、数、英、小論文、看護系進学対策、就職対策の講習を通年実施中(○) 漢検(1、2年全員受験)110名、英検(1、2年全員受験)147名、P検4名、数検3名の合格(○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 開講講座数 17 総参加者 280人(○) 進学講習継続者が増加。 <ul style="list-style-type: none"> 進路未決定者 14名 9.2%(○) 進路HRは計画通りの回数で実施(○) <p>エ 1年生英語と3年生実用英会話授業選択者でスピーチ大会を実施。公開授業の代替とした(○)</p>
--	--	---	---

府立茨田高等学校

<p>2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出</p>	<p>(1) 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。</p> <p>ア 教員のコミュニケーション指導力を充実する。</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>ウ 教職員PM研修を実施し、PMの理解促進、普及を図る。</p> <p>エ 『コミュニケーションコース』の学校設定科目「コミュニケーション総合」「PMI」「PMII」の内容をより充実させる。</p> <p>オ Inteternational Day・授業でのプレゼンテーションを実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>カ 進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>キ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。</p> <p>ク 合理的配慮ができる人を育てる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・定例のコミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化対策を立案する。</p> <p>・教員それぞれが、生徒のコミュニケーション能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有するとともに、特に優れた取組については本人によるプレゼンを行い、全体化することで、教員のコミュニケーション指導力を向上する。</p> <p>・PMの技法を応用し、自分を大切に、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。</p> <p>イ・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底した上で、その効果をアンケートで確認する。</p> <p>・コミュニケーションをテーマとしたホームルーム（「コミュニケーションHR」）を実施し、志学と連携したコミュニケーション教育を充実する。</p> <p>・校外のイベントへの参加</p> <p>・月1回の朝礼で校歌斉唱</p> <p>ウ・「PM」のテキストを活用し、教職員PM研修を校内で実施し、校外にも普及を図る。</p> <p>エ・「コミュニケーション総合」で落語家などの著名人や大学教授等を招き、充実したコミュニケーション教育を継続する。</p> <p>・「PMI」「PMII」の授業内容を整理し、教材及び指導方法を確立、継承する。</p> <p>・「PMI」「PMII」履修生徒の中からNPO法人シヴィルプロネット関西によるメディアーター認定試験の合格者を出す。</p> <p>オ・International Dayの実施。</p> <p>・1年生英語会話、3年生実用英会話の授業でのプレゼンテーションの取り組み</p> <p>カ・生徒が職場訪問し、職場の人とコミュニケーションを取る機会を増やす。</p> <p>キ・体験入部等年度当初の新入部員獲得に向けた行事の充実。</p> <p>・地域連携を活用した部活動の活性化。</p> <p>・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を招待したイベント「茨田高校フェスティバル」の開催。</p> <p>・「部活動の日」（毎週金曜日／生徒、教員共に、部活動への参加を促す取組み）のさらなる充実。</p> <p>ク 高齢者施設・障がい者との交流の場の設定、障がい者差別解消法の趣旨を理解させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・コミュニケーション委員会を年20回以上、コミュニケーション担当者会議を年5回（年度初め、各学期、年度終わり）開催。</p> <p>H29：27回・5回</p> <p>・職員会議で教員による「コミュニケーション能力向上取組プレゼン」を年1回実施。H29(1回)</p> <p>イ・25項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施し、20項目以上で肯定的な回答の数値80%以上。</p> <p>H29(20項目)</p> <p>・コミュニケーションHRを年3回実施。</p> <p>・花園大学主催のイベントに参加。学校説明会(2回)人権文化交流会においての発表</p> <p>ウ・教職員PM研修を校内で年1回実施。(アの内容を含む) H29(1回)</p> <p>・研修への講師派遣、積極的な学校見学受入れ</p> <p>エ・コミュニケーションコース選択生徒アンケートで「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒の割合を80%以上</p> <p>(H29年度95.5%)</p> <p>・「PMI」「PMII」を担当できる教員を養成し、2名以上確保。(H29年度2名確保)</p> <p>・メディアーター認定証取得者を増やす。(H29：9名)</p> <p>オ・International Dayの実施。(H29年11月実施)</p> <p>・各学年授業でのプレゼンテーション。優秀者は集会でプレゼンテーション</p> <p>カ・学校幹旋就職希望生徒全員に応募前職場見学の実施 (H29：148社310名)、ジュニアインターシップ^ア実施 (H29：16社20名)</p> <p>キ・入部率を50%にする。</p> <p>H29:24.5%</p> <p>・茨田高校フェスティバルを年に1回開催 (H29はH30年2月に実施)</p> <p>ク・年1回の交流実施</p> <p>・生活福祉の授業での施設交流 (H29：8回)</p>	<p>ア・コミュニケーション委員会は年25回、コミュニケーションコース担当者会議は年5回開催された。(○)</p> <p>・教員による取組プレゼンは年1回実施。(○)</p> <p>・聴く技術を含むコミュニケーション技法を全教職員で学ぶ教職員PM研修を年1回実施。(○)</p> <p>・学年目標を設定し指導 (○)</p> <p>イ・数値が向上したのは20項目。(○)</p> <p>・コミュニケーションHRを年3回実施。(○)</p> <p>・生徒会主催の「茨田フェスティバル」にコミュニケーション部員が参加し、ポスター発表をしたが、プレゼンイベントは実施できず。(△)</p> <p>・パワーポイントによるPMプレゼンテーションを作成し、コミュニケーション部員が年2回(人権文化交流発表会、寝屋川支援学校交流会)PMを紹介。(○)</p> <p>ウ・教職員PM研修を2月22日に実施。(○)</p> <p>・鹿児島県立福山高校・大体大生・慈恵学園G・堺市支援コーディネーター講座12名にPM取組み紹介(○)</p> <p>エ・「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒は94.9%(○)2月アンケート実施</p> <p>・「PMI」「PMII」ともに本校教員2名で担当。(○)</p> <p>・メディアーター認定証取得者7名(△)</p> <p>受験者は17名で認定者より、年々全体のレベルが上がっていると高評価(○)</p> <p>オ</p> <p>・1年生英語会話 3年生実用英会話でスピーチ大会実施。(○)</p> <p>・International Dayとして11月10日実施(○)</p> <p>カ</p> <p>・2年ジュニアインターシップの参加者18名 16社</p> <p>・応募前職場見学302名 138社(○)</p> <p>キ・入部率27%(△)H29 24.5%</p> <p>*兼部の増加が数値の上昇につながった。</p> <p>・茨田高校フェスティバルをH30年2月に開催(○)</p> <p>ク・支援学校との交流会1回 (○)</p> <p>・生活福祉の授業で近隣の高齢者施設との交流2回。支援学校、障がい者施設との交流3回(○)</p>
-------------------------------------	---	---	--	---

府立茨田高等学校

<p>3 地域連携の推進</p>	<p>(1) 地域連携を通して生徒の成長を促す ア 地域活動に参加する。 イ 地域の人々を学校に招聘する。</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア HPの充実 イ 学校説明会充実</p>	<p>1) ア 地域活動への参加回数を維持する。 イ・体育祭や文化祭、茨田高校フェスティバルを活用して地域の人々を学校や行事に招き、交流を持つ。 ・中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H28年度2回) ・今年度もPTA文化教室に地域の人々の参加枠を設ける。</p> <p>(2) ア HPを1週間に1回更新する。災害時の対応、行事、授業参観案内をプリント配布と共にHPに掲載し保護者にも周知。 イ 本校での説明会と共に地域や中学校での学校説明会へ積極的に参加する。中学校訪問、学校案内送付の充実</p>	<p>1) ア 地域活動への参加回数 H29(7回) イ・年間1回以上の招聘を行う。H29(7回) ・年間3回以上の開催。H29(3回) ・年1回の実施。H29(1回)</p> <p>(2) ア・1週間に1回の更新を維持する。(H29年週1回更新) イ・本校での説明会以外に地域や中学での説明会参加回数を維持。申し出があれば断らない。H29:説明会18回 6月に近隣中学校訪問</p> <p>ア 11回(○) H29:7回 イ・2月9日に鶴見緑地公園で地域との交流イベント茨田フェス開催(○) ・茨田カップ年2回開催。サッカー・バスケット(△) ・文化教室実施23名参加(○) ・茨田高ツアー10名参加(○) 過去4年間で多くの近隣の方に参加してもらっており、催し内容を変える必要がある。 (2) ア 1週間に1回の更新。(○) イ 609人(H29 854人)(△) 学校説明会17回実施(校内6回以上)(○) 全教員で中学校訪問(4月・6月)(○)</p>
----------------------	--	---	--